

令和3年度 釜利谷地域ケアプラザPDCAシート\_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

地域の現状と今後の方向性

前年度、新型コロナウイルスの影響で地域内の様々な活動等が自粛・縮小され、再開が出来たところもあれば、そうでないところもある。「かまりや一の」「認知症サポーター養成講座」等も今年度は、新型コロナウイルス対策を講じながら活動をすすめたい。また地域住民が住民自身で地域力をより高めていくことの一翼を担えているような情報提供、情報発信をしていく。

今年度の重点的な取組

新規  
継続

—具体的な取組内容—

「これからも住み慣れた釜利谷で安心してくらししていくために一緒に考える会”かまりや一の”」の継続  
これまでの地域住民や事業者に加え、エリア内の小学校にも参加を呼びかけ”あいさつ運動”を中心に”住みやすい釜利谷”について考えていく。また、かまもりホルダーの周知を継続する。

認知症の正しい理解、予防、介護者への支援の充実  
講演会の開催や、園児、小学生、中学生向けの認知症サポーター養成講座を継続して開催し、あらゆる世代に認知症についての正しい知識と理解を普及啓発していく。また、キャラバンメイト連絡会等を通じて支援者を増やしていく。

住みなれた地域に住み続けるため、地域住民による活動の情報リスト「釜利谷みんなの情報リスト」と、お買い物後の配達情報も掲載している「釜利谷みんなのお買い物情報」の情報更新を行う。

エンディングノートの普及活動の工夫  
広報紙への掲載、地域のサロンに出向いての周知に加えて、地域ケアプラザで説明会を開催する。

支援者側が感じる課題やニーズにとらわれない視点での新たな教室や講座、情報提供を行い、より多くの方に福祉・保健サービスが提供できるようにしていく。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

前年度に引き続き、コロナ対策を優先しての活動が中心となった。集合人数の工夫やICTの利用等含め、感染予防対策の取り組みを中心にし、自粛をするだけではない可能な範囲での活動を行った。認知症サポーター養成講座、各種相談、かまもりホルダーの登録会等積極的に取り組みをおこなった結果、外に出ることを待っていた地域住民が多く、必要なことを実施できたと思う。

エリアの中で目立ってきた8050問題についても、近隣の民生委員や事業所等と共有し横のつながりを作る機会を持つことができた。更に暮らしやすい地域づくりのため拠点施設として役割を果たしたい。

区からのコメント

コロナ禍でしたが、感染対策に留意しながら着実に事業を実施され、外出や人との繋がりを求めていた多くの方に喜んでいただけたことと思います。また地域活動の多くが休止となりましたが、関係者との繋がりを絶やさずに足を運び、活動再開に向けた支援やモチベーションの維持に向けた働きかけをされた他、「みんなであいさつ かまりや一の」の啓発や「釜利谷福祉施設マップ」の更新等を通して、ネットワークの構築・拡充に取り組みされました。

8050といったSOSの声を上げにくい背景についてもケアプラザ内で課題を共有し、連携しながら事業を展開されています。今後も各部署の強みとネットワークを活かした取組をケアプラザ全体として進めていただきますようお願いいたします。